

# 道徳科の授業指針

私たち教師が道徳科の授業において目指すのは、生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことにあります。道徳性は、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度から成ります。道徳的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力、道徳的心情は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと、道徳的实践意欲と態度は、道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味します。

一方、学習者である生徒は、学びがいのある授業、すなわち、学ぶ喜びのある授業を求めています。そのため、本校では道徳科の授業づくりに当たり、教師の視点「道徳性を養う授業」と共に、生徒の視点「学ぶ喜びのある授業」を目指し、教師が学習指導案の作成段階から共に学び合い、高め合うことで授業力の向上を図っています。

## 【教師の視点】道徳性を養う授業

- 1 取り扱う道徳的価値を明確にする。**
  - ◆ 内容項目の概要及び指導の重点について理解を深める。  
(中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」)
- 2 自分を見つめさせるための指導を工夫する。**
  - ◆ 生徒が自己と向き合い、道徳的価値を発展させていくことへの思いや課題に気づき、未来に夢や希望がもてるようにする。  
そのため、書く活動等を効果的に取り入れる。
- 3 発問構成を工夫する。**
  - ◆ 授業のねらいに深く関わる中心発問と、それを生かす前後の基本発問、資料を離れて自分を見つめさせる発問の三つを設定する。  
＜発問を中核とした授業構想＞ ①ねらいを考える。→②中心発問を考える。→③中心発問を生かすための基本発問を考える。  
→④自分を見つめさせる発問を考える。→終末について考える。
- 4 多面的・多角的な思考を促進させる。**
  - ◆ 生徒に「ほかに考え方はないか」と思わせる発問を行う。
  - ◆ 話し合いを行わせたあと、自己の考えを再構築させる。
  - ◆ 書いた文章を読み合い、多様な考えに触れさせる。
- 5 道徳的な成長を認め、褒め、励ます。**
  - ◆ 道徳ファイルの工夫等により、学習の積み重ねと成長の度合いが確認できるようにする。
  - ◆ 生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるよう、個人内評価を充実させる。

## 授業評価、授業観察、研究協議等の主な観点

- 発問**

生徒が道徳的価値を自分自身のこととして捉えられる問い、多面的・多角的に考えることができる問いになっていたか。
- 傾聴・受け止め**

生徒の発言やつぶやきを傾聴して受け止め、指導に生かしていたか。
- 教材の取扱い**

教師が読んで聞かせるなど、理解が困難な生徒への配慮ができていたか。
- 学び合い**

生徒が共に考えを伝え合い、学び合えるような指導方法の工夫ができていたか。
- 自分との関わりで、生き方を見つめさせる**

生徒が自分との関わりで自らの生き方を振り返るための手だては有効だったか。
- 配慮を要する生徒への手立て**

特に配慮を要する生徒に、適切に対応していたか。

## 【生徒の視点】学ぶ喜びのある授業

- 1 自分との関わりで道徳的価値を理解できる。**
  - ◆ 導入…短い説話、発問、写真や実物の提示等
  - ◆ 展開…前半：資料と自分との照合 後半：資料を離れた思考
  - ◆ 終末…説話、書くこと、映像や音楽の視聴
- 2 教材が魅力的である。**
  - ◆ **個人対面指導**  
人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えてくれる。
  - ◆ 悩みや葛藤等の心の揺れを含め、深く考えることができる。
- 3 深く考えるかがある。**
  - ◆ 読んだだけでは分からない。答えは一つとは限らない。
  - ◆ 自分自身の課題でもある。
  - ◆ 多様な観点から考えることができる。
- 4 共に学び合うかがある。**
  - ◆ 多様な意見を聞き、考えを広げ深められる。
  - ◆ 自分の生活に生かしていこうとする思いや課題をもてる。
  - ◆ 根拠に基づく意見表明がしやすい。
- 5 頑張れば、認めてもらえる。**
  - ◆ 認め合い、支え合い、励まし合う学級の雰囲気がある。
  - ◆ 学習過程の努力を認め、褒め、励ます教師がいる。